

## 第26回 圧力容器規格委員会 議事録

I. 日時： 平成27年8月7日（金） 14:00～15:40

II. 場所： 高圧ガス保安協会 第2・3会議室

III. 出席者（順不同、敬称略）：

委員長：小林

副委員長：辻

委員：鴻巣、坂倉、青山、後藤、笹井、荒川、永井、酒井

M E T I：石津、今井

アソシエート：—

K H K：森永、磯村、富岡、梶山、成宮

IV. 議題：

- (1) 委員長の互選及び副委員長の指名
- (2) 前回議事録確認
- (3) 技術基準の見直しの審議
  - ①超高压ガス設備に関する基準
  - ②非円形胴の圧力容器に関する基準
  - ③第1種特定設備の技術基準
- (4) 技術基準整備計画（3カ年計画）の審議
- (5) 技術基準策定手順書の審議
- (6) その他

V. 配布資料：

- |       |                               |
|-------|-------------------------------|
| 26資料1 | 圧力容器規格委員会 委員名簿（平成27年8月1日）     |
| 26資料2 | 第25回圧力容器規格委員会 議事録（案）          |
| 26資料3 | 技術基準の見直しについて                  |
| 26資料4 | 技術基準整備3カ年計画（平成27～平成29年度計画）（案） |
| 26資料5 | 技術基準策定手順書の見直しについて             |
| 参考資料1 | 技術基準整備3カ年計画（平成26～平成28年度計画）    |

## VI. 議事概要：

### 1. 議題（１）委員長の互選及び副委員長の指名

事務局より委員会成立の報告後、委員長の互選及び副委員長の指名を行った。委員長は互選により小林委員に決定した。副委員長は小林委員長の指名により辻委員に決定した。

### 2. 議題（２）前回議事録確認

26 資料 2 に基づき、第 25 回圧力容器規格委員会議事録（案）の内容について審議を行った。特段のコメントはなく、出席委員全員の賛成により可決された。

### 3. 議題（３）技術基準の見直しの審議

#### （１）超高压ガス設備に関する基準について

26 資料 3 2.(1)に基づき、技術基準の見直しについて以下の審議を行った。

①引用規格は最新版に改定するのが基本方針か。

→基本的に引用規格は最新版とする。

→検査、試験規格は最新版にするのが原則である。

以上の審議を踏まえ、今回の修正は軽微な変更として出席委員全員の賛成により可決され、当該資料に示された事務局案の通り見直すこととなった、

#### （２）非円形胴の圧力容器に関する基準について

26 資料 3 2.(2)に基づき、技術基準の見直しについて以下の審議を行った。

①保安4法整合の観点からJIS B 8280へ本基準を統合する方針はないか。

→本基準は、JIS B 8280よりも多少厳しく規定されており、JISに本基準を統合する場合、検討が必要であると考ええる。

→今後の長期的な検討課題として考える。

以上の審議を踏まえ、今回の修正は軽微な変更として出席委員全員の賛成により可決され、当該資料に示された事務局案の通り見直すこととなった、

#### （３）第1種特定設備の技術基準について

26 資料 3 2.(3)に基づき、技術基準の見直しについて以下の審議を行った。

特段のコメントはなく、廃止に係る書面投票（投票期間 15 日）及びパブリックコメント（公表期間 1 ヶ月）の実施について出席委員全員の賛成により可決された。

#### （４）超高压ガス設備に関する基準（KHKS 0220）に係る課題について

26 資料 3 3.に基づき、将来的な技術基準の体系見直し等について以下の審議を行った。

①現在、別添1の安全係数4、別添7の安全係数3.5であるが、別添7の普及率が上がっていない。国際的には、EN、ASMEが安全率2.4の方向に動いている中、日本が今後、圧力容器の世界で競争力を維持できるか不安がある。

→技術力の面、ハイエンドな製品を製作する上では、安全率2.4の基準は必要であるが、一般的な製品の場合は、安全率が4から2.4に変わってもコストメリット等がなく、デメリットの方が大きい場合もある。需要の違いがあり、すべての製品を安全率2.4で製作するのは難しいと考える。

→日本においてプラント建設等でのニーズの減少により、JIS や KHKS を使用することが少なくなっている。日本で需要がある場合でも、別添 7 を使用することより別添 1 を使用する方がメリットが大きい。

→3～4 年前に ASME Sec.VIII Div.1～3 の海外での使用率を調査したことがあり、その調査の結果として、一部の施設を除きほぼ Div.1 が使用されていることがわかっている。

→今後も長期的な検討課題として議論をしたい。

#### 4. 議題（4）技術基準整備計画（3カ年計画）の審議

26 資料 4 に基づき、今年度審議予定である各基準の説明を行い、技術基準整備 3 カ年計画（平成 27～平成 29 年度）について、出席委員全員の賛成により可決された。

#### 5. 議題（5）技術基準策定手順書の審議

26 資料 5 に基づいて、技術基準策定手順書の見直しについて説明を行い、出席委員全員の賛成により可決された。

#### 6. 議題（6）その他

次回委員会は、現在未定であるため開催案件があれば別途調整することとした。

以上